
旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定

住民説明会の取りまとめ

令和7年12月15日
東川町

開催概要

- 令和7年11月1日に、「旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定状況住民説明会」を開催し、54名の方に参加いただきました。
- 説明会においては、町長より、「旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想」策定の進捗状況を説明したうえで、町民と行政がお互いの立場を尊重し、共に知恵を出し合うことにより、町民が主役のまちづくりを進めていくための貴重な機会として、町民のみなさまとの対話を行いました。

開催概要

開催日時	11/1（土）18:00～20:00
開催場所	東川町役場3階（大会議室）
参加者数	54名

適疎で豊かな暮らしの実現に向けて

旧東川駅跡再開発プロジェクト 住民説明会



2025
11.1 ± 18:00-20:00

概要 旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定に向け、懇談会を開催し検討を進めていますが、現在の進捗状況について説明会を開催いたします。多くのみなさんご参加をお待ちしております。

会場 東川町役場3階「大会議室」
〒071-1492
東川町東町1丁目16番1号

申込 事前申込は不要となります。
※皆様のご参加お待ちしております。

お問い合わせ：東川町役場 道路推進課 道路推進室 Tel. 0166-82-2111（内線：290,293）

1. 事業のコンセプトについて

1.事業のコンセプトについて | コンセプト、空間づくり

コンセプト、空間づくり等に関するご意見

黄色：懇談会での検討の対象となりうるもの

発言事項	参加者のご発言（要旨）	町の回答（要旨）	位置づけ
右側エリアの空間づくり	9ページについて、何が重要か今後精査いただくものと考えている。コンテンツが多いと寄せ鍋的になってしまうことを懸念している。とはいえ町民の想いもある中で難しいだろうが、右側エリアは企画展やポップアップ等として、フレキシブルに使える空間となればよいのではないかと。固定的な展示ばかりだと飽きが来ってしまう可能性がある。デザインや暮らしに関する様々な企画があるとよい。	汎用性のあるスペースを活かしていくことが重要である。企画を持って踏み込んでいくことが今後の検討に必要なと考えている。	意見
構想のコンセプト、空間づくり	“美しく生きる”という東川町の考えが好きであるため、本構想でもいずれビジュアライズされたものがあるとよい。また、「キトウシの森きとろん」や「そらいろ」では、当初想定と実際の利用者のギャップが感じられる。運営しながら柔軟に改善されていく部分があればよい。「せんとぴゅあ」、「キトウシの森きとろん」、「そらいろ」は余白空間の多い点が素晴らしい。居心地のよい余白空間、偶然の出会い等を大切に施設であってほしい。 「せんとぴゅあ」や「そらいろ」には、年代、国籍を超えて様々な人が存在しており、実に東川らしく素晴らしい。今後も柔軟な対応をお願いしたい。	- 美しさ、デザインの大切さを身に付けてきた町である。農村景観を素晴らしいと感じる気持ち等も醸成されてきた。本事業はこれまでの取組の延長線上であることが分かるように言語化していきたい。 - 我々が行政として最も大切にしているのは、想定と違って柔軟に対応することである。「せんとぴゅあ」は当初図書館というイメージが強かったが、静粛や飲食に対する考え方を柔軟に変えてきた。このような経験上、柔軟さが最重要であると感じている。	意見

2. 事業の内容について

2. 事業の内容について | 住民の生活環境（駅前記念碑周辺、道路・歩道）

住民の生活環境に関するご意見

黄色：懇談会での検討の対象となりうるもの

発言事項	参加者のご発言（要旨）	町の回答（要旨）	位置づけ
駅跡記念碑の維持管理	- 東町2丁目町内会としての懸念を伝えたい。再開発エリアは東町2丁目の中心に位置しているため、分断が生じてしまう恐れがある。町内会は羽衣公園横を境に北地域と南地域に元来活動してきた。今回の整備により通路に制約が加わるのであれば、随時情報共有してほしい。現在、駅跡記念碑南隣が資源ごみの収集場所になっている。ゴミの量は相当量あるため、回収には広いスペースを要する。代替の適当な場所は周辺に見当たらない。高齢化が進んでいる地区であるため、迂回の必要が生じると負担が大きい。その点を配慮してほしい。 - 駅跡記念碑は地元有志が歴史資産を残すべく設置したものであることから、非常に価値が高いものと考えている。ただし、維持管理は扱いがあいまいであり、見かねた町内会が全戸招集して年4回あまり草刈り等を実施しているものである。しかしながら、高齢者が増加する中で出役が低調になり、管理が重荷となっている。再整備に合わせ、記念碑の維持管理を一体的に行うことも検討してほしい。 - 構想自体には反対しないが、配慮いただきたい。	- まず、本検討には不確定な部分が多く、本日いただいた意見を踏まえて今後詳細化していく。また、周辺町内会には個別説明を検討している。東町2丁目町内会の事情はよく理解できた。対象地中央の道路は、車を止めつつ歩行者を止めないような形を視野に入れたい。また、対象地を囲うことは想定しない。地域の生活道としての役割を考慮した上で検討を進めたい。騒音、人の出入りが増えることによる生活環境への懸念もありうるものと承知している。そうした点を考慮しながら検討したい。今後も個別説明等の中でご意見を頂きたい。 - 資源ごみ集積場の問題も今ははっきりと認識した。 - 記念碑の管理についても認識した。対象地を町有地化するのであれば、町が主導して記念碑の管理を行うべきものと考えている。	意見
市街地道路及び歩道整備	11ページで、市街地道路・歩道整備への言及があった。近隣に住んでいるため、どのような整備が想定されるのか確認したい。	民間ホテル計画がある用地との間の通りについて、開発用地は将来的に町に譲っていただくことを前提とした幅広い活用を想定して、本事業と合わせて整備を検討している。事業地の奥にある「そらいろ」、羽衣公園と対象地の一体性を考慮していきたい。	質問
	将来的に市有地を買い取って道を広くしたいということか。	そのようなことも視野に入れたいということである。	質問
	米田氏の角の交差点は、非常に見通しが悪い。交通事故が何件か生じている。仮に周辺から自家用車をシャットアウトするとすれば、最近では道路交通法の関係で自転車等への制約が厳しくなっている。自転車の飛び出し等懸念しており、交差点の安全性について検討してほしい。	尤もなご指摘である。2つのエリアのちょうど間付近の交差点について、16号・14号倉庫は取り壊しもやむを得ないと考えている。これらを取り壊せば、交差点が広がる可能性がある。更には、北4条道路は落雪が頻繁に生じていて、歩行者の安全性に懸念がある。北4条道路について、周辺住民の意見を十分に考慮した上で、生活道路のみとして認めるなどの工夫が必要と考える。	意見

3. 具体的な機能について

3. 具体的な機能について | 導入機能と既存施設や町の産業等との関連 (1/2)

導入機能と既存施設や町の産業等との関連に関するご意見

黄色：懇談会での検討の対象となりうるもの

発言事項	参加者のご発言（要旨）	町の回答（要旨）	位置づけ
導入機能の既存施設との共存	9ページのうち、特に「3. 地域経済の内発的発展に資する機能」については、どのような検討をしているか。道草館の一番よいところはイトインがないところである。それにより町内の飲食店を回遊しているのではない。駅跡に充実したイトインスペースができれば、周辺の飲食店の集客に影響を与える。 - ミュージアムショップに付帯する程度であればよいが、どの程度になるか知りたい。道草館の機能を補完するよりは、既存施設をさらに充実した方がよいのではない。全く別の機能を持たせ、独立しつつ連動した方が、潰し合いにならないのではない。	- 懇談会でも同様な意見が出ている。一旦考えられるものを全て盛り込んでいるが、今後はそれをどのように優先順位付けするかという議論となる。本当に飲食機能が対象地にあるべきなのか、どのような性質のものにするべきかという論点に発展していくことになる。十分に検討すべきである。 - また、仮に飲食機能があるとしても、町外の全く無関係な事業者が入ってくることは考えにくい。次回懇談会に向けて、運営のあり方を含めた案を提示すべきである。道草館をどうするのかも考えていべきという点も指摘の通りである。道草館を機能強化するという方向性にもなるだろう。	意見
導入機能とデザイン・木工の親和性	- プロジェクト全体には大いに賛同するが、いち木工事業者として個人的に意見がある。9ページの導入機能の構成案「1. 人づくり（文化）に資する機能」と「3. 地域経済の内発的発展に資する機能」の木工等の産業振興機能は相性がいいのではない。 「2. 人づくり（学び）に資する機能」に関しても、デザインや家具・木工に関する教育ができるのではない。1～3まで一体で考えていただきたい。	12ページは2つのエリアに分けているが、前回懇談会や議会との議論においても、4つの機能がはっきり分かれるものではないだろうという意見が出てきている。混ざり合う部分は当然あるため、木工のほか、ラボに近いもの、学びに繋がるスペースの在り方なども踏まえて検討していきたい。	意見
導入機能と子どもの学びとの関連性	9ページの「2. 人づくり（学び）に資する機能」について、対外的な学びが多い印象を受けた。中学生以下の子ども達の学びを含めた文言があると、より親しみやすくなるのではない。長い目で見て、子ども達がこの場で学びを深めることが出来れば、町への愛着に繋がっていくだろう。 - 町民にとって「デザインミュージアム」は浸透しにくい概念だが、子どもや孫がそこで学ぶ機会があれば、理解しやすくなるのではない。その点はコンテンツに含めていただきたい。	- 町民の皆様、子ども達の成長に資するものとすべきという意見を多くいただいている。そうした点を含めた記載ぶりや理解していただきたい。 - 東川町は子育て教育に非常に注力している町である。本事業にとどまらず、他の施設を含めてどこで何をすべきかを全体的に設定していきたい。	意見

3. 具体的な機能について | 導入機能と既存施設や町の産業等との関連 (2/2)

導入機能と既存施設や町の産業等との関連に関するご意見

黄色：懇談会での検討の対象となりうるもの

発言事項	参加者のご発言（要旨）	町の回答（要旨）	位置づけ
導入機能と食・農業との関連性	- 赤レンガ倉庫を活用してワインづくりをしており、町外から200～300人ほどの来訪者があった。その方達には、倉庫群は町内産品の出荷に使っていたもので、農業と色を通じて町を活性化していた施設であると説明をしている。 - 本事業でも、できれば食と農業で経済を支えてきた施設であるというニュアンスを入れていただくと、倉庫の歴史を伝えられるのではないかと。東川は農業や食で知られる地域であることから、そのような性質や機能があればよい。	9ページはそうしたニュアンスを含んではいる。東川町は農業を中心に発展してきた町であり、懇談会には農協が加わっている。農業を表現することも含めて議論していると理解いただきたい。	意見
既存施設との連携	駅跡にとどまらず町全体の施設と連携すべきと何度か言及されている。各施設の意味づけが見えると非常にありがたい。「クラフトピア」、「せんとぴゅあ」、「郷土館」等の機能が重複しうる中で、意味づけが分かる資料があれば、本事業の納得度が上がっていくだろう。	まったくその通りである。10～11ページはその意図で加えたものである。“町全体がデザインミュージアム”という考えの中、町全体の回遊性を持たせようという考えを持っている。こうした考えを町民にも浸透させていきたい。今後新規に整備する施設についても、例えば居場所であるなど、役割をしっかりと認識いただくことが重要である。各施設の特徴、役割、意味づけが分かるように伝え方の工夫をしたい。	意見

3. 具体的な機能について | その他

その他のご意見

黄色：懇談会での検討の対象となりうるもの

発言事項	参加者のご発言（要旨）	町の回答（要旨）	位置づけ
多目的ホール(ライブハウス)の設置	- 夢のある計画だが、さらに期待を込めたい。以前の資料では多目的ホールと明記されていたが、今回の資料には見当たらなかった。ライブハウスは非常に素敵なものとなることを期待している。 - 優先度的にはミュージアム等より落ちるのだろうが、札幌以北に300人以上の本物のライブハウスはない。文化芸術の雰囲気を出し出す、目玉となる場所とする意義があると感じている。	資料を見やすくするために情報量を落としたが、9ページ「4. コミュニティづくりに資する機能」の「②屋内外でのイベント開催できる機能」に、そうしたニュアンスを込めている。自身の思いとして、ライブハウス、子どもからお年寄りまで幅広く練習や発表ができるように、音響や照明がしっかり揃った汎用性の高い場所が必要だと考えている。懇談会の中でも詰めていきたい。	意見

4. 展示・収蔵について

4. 展示・収蔵について | 事業への特定の設計隈事務所の関与

事業への特定の事務所の関与に関するご意見

黄色：懇談会での検討の対象となりうるもの

発言事項	参加者のご発言（要旨）	町の回答（要旨）	位置づけ
事業への隈事務所の関与	- 織田コレクションの活用には前向きに協力したいが、コンテンツ提供ないし設計における特定の設計事務所の関与には違和感を持つ人が多いのではないかと。 - 特定の設計事務所の木材をデコレーションとして視的要素を多く取り入れた外観については、木材の腐食、維持管理において様々な地域で問題が指摘されており、東川町にも既にそうした建築がある。有名建築家のわかりやすい外観で人を呼んでくるという方向や、特定の個人との連携を続けていくことへの懸念がある。また、町内の同氏監修の建築物について、維持管理上の不備があると感じている。	- 我々として反省すべき部分があることがあり、関係性についてはスタンスを変えた部分がある。 - 東川町とご指摘の設計事務所の関係の経緯は他自治体とは異なっている。同事務所から東川町に事務所を設置させてほしいという申し出があり、町や関係団体が連携してKAGUの家やKAGUデザインコンペ等の逆提案を行った。「キトウシの森きとろん」と「そらいろ」については意匠の監修のみお願いしたが、その中で町としては積極的に意見表明せず、懸念のある部分が出てきてしまった。 - 今後はよりフラットな関係構築をしていきたい。KKAAが町内に事業所を構えている以上、連携していくこと自体については一定の合理性がある。もう一つ、「デザインミュージアム」の部分については別設計事務所に助言いただくよう調整している。この点について先方は理解しており、一方的に提案をすることはないだろう。	意見
	特定の設計事務所のスペースをここまで広く取る必要があるのか。	数年前、自身の町長就任前に寄贈の申し出があった。内容は模型等で、一部を無償で寄贈いただき、展示の什器・デザインも一部負担する形でよいと聞いている。ただし、ご指摘の設計事務所の隈研吾アーカイブを対象地で展示することやその場所・広さは決定されたものではない。懇談会の中で必要性が認められるのであれば検討していくことになる。	質問
	今後に向けた要望として、特定の設計事務所と町民が直接対話する機会を設けてほしい。建築アーカイブの価値や、今後の姿勢等を伺いたい。代表本人でなくてもよいが、東川町において一定の権限がある方であればよい。	- 懇談会では、ご指摘の設計事務所スタッフ等ともワークショップを通じて意見交換を行っている。 - 今後、上記事務所とも町民が接する機会を設ける予定である。先方の意向が定かではない中で確約はできないが、前向きに検討したい。	意見

4. 展示・収蔵について | ゾーニング、収蔵スペースの規模

ゾーニング、収蔵スペースの規模に関するご意見

黄色：懇談会での検討の対象となりうるもの

発言事項	参加者のご発言（要旨）	町の回答（要旨）	位置づけ
対象地のゾーニング、収蔵場所	“町全体がデザインミュージアム”という考え方からすれば、仮に意匠面で優れていたとしても、特定の設計事務所のデザインが既にまちなかに氾濫しているように感じている。本事業に様々な建築家が関わった方が有意義なものができるのではないかと。KAGUデザインコンペについては今後継続していけば素晴らしい作品が蓄積されていくだろう。それらの収蔵スペースについては検討しているのか。対象地を収蔵エリアと展示エリアに分けるようなゾーニングもありうるのではないかと。 - また、収蔵については見える収蔵として倉庫を活かしてはどうか。パブリックアクティビティエリアが広大すぎるような印象を受けている。1つに集約すればもう少しコンパクトにできる。18号倉庫を新設する話もあったが、こちらも倉庫を活かす方向で考えれば、50億円ほどの新設費用も必要なくなりコスト削減できる。	- ご心配は尤もである。誰が設計を手掛けたとしても、対象地の歴史を大事にしたデザインとしていくべきである。今回は、別設計事務所にプランニングの提案をしていただく想定をしている。 - これはまだ基本構想の段階であり、計画において100%決めてかかっているものではない。よりよいものを実現することに全力をかけるべきで、「ありき」で進めることとのバランスは考えるべきである。 - 織田コレクションについて、“見せる収蔵”のアイデアが出てきている。そうした方向に進む可能性は強い。KAGUデザインコンペの受賞作品は実はミニチュア版が主であるため、あまりスペースは取らないものである。	意見
収蔵作品の展示	姉妹都市キャンモア町の隣にあるバンフ町で長年にわたり映画祭に携わっている。できるのであれば、本物をアーカイブすることの価値があると考えている。そうしたことがあればさらにいいミュージアムになるのではないかと。	町として、年に3～4作品を地場事業者と連携して商品化している。1点はあるので、しっかり活用していくべきと考えている。	
収蔵スペースの規模	- 収蔵について、織田コレクションの収蔵庫としてはかなり必要と考えている。地域の家具の歴史も長い中で、地場の家具を扱うミュージアムになるとさらに良い。 「旭川デザインセンター」は展示・販売場としての側面が強い。「デザインミュージアム」のような施設となれば、国外の来訪者もさらに増えるだろう。	- 木工事業者、「旭川デザインセンター」との関係の中で議論していく。 - 旭川家具の表現も重要であろう。	

5. その他

5. その他

黄色：懇談会での検討の対象となりうるもの

その他のご意見

発言事項	参加者のご発言（要旨）	町の回答（要旨）	位置づけ
素案と懇談会の議論の関連性	- 懇談会ではどのような議論が行われているのか。タウンミーティング時からの差分があまり分からなかった。 - 個人的な意見や感触でもよいが、もともと想定していた素案と町民の考えがそこまでずれていなかったということか。	- 今回の資料は懇談会の議論の進捗を取りまとめたものである。総じて言えるのは、全く違う方向に向かっていく意見は少ない。どこを優先するのか、大事にするのが、各委員の背景によって異なるくらいである。 - 一昨日の第4回懇談会では、特に優先順位付けの話が出ている。様々な意見交換をする中で、新たな気付きが出ている。方向性が変わったというよりは、議論が深まったということである。 - 織田コレクションへの理解が深まることで、それを中心にすべきという意見が増えてきた。それ以外に何をするのかについては意見が分かれている。どこが重要なのかをそれぞれ考えているところである。	質問
本事業におけるKPI	想定KPI等をいずれかの時点で提示してほしい。	- 次回までに出せる部分と、そうでない部分がある。KPIを設定して検証すべきであるという点はその通り。集客を求めていくべきという意見と、町民生活への影響を懸念する意見と、双方ある。 - ランニングコストを覚悟しつつ、町民の居場所となる施設であるべきという意見が強く出てきている。分野ごとに望ましい集客を考えていく必要がある。次回示すものもあれば、段階的に検討するものもあるだろう。	意見

5. その他

黄色：懇談会での検討の対象となりうるもの

その他のご意見

発言事項	参加者のご発言（要旨）	町の回答（要旨）	位置づけ
財源の見通し	- プロジェクト自体は大賛成である。現段階で財源の見通しをどのように持っているか。 - 国庫補助の各種条件がコンセプト等と連動しうる。そうした観点から外せない。	- 財源は、国庫補助を最大限活用したい。具体的には第2世代交付金の活用を軸に検討している。検討の経費、整備費、開業準備経費等を一体的に扱い、2分の1を確保したい。その残りは、最大限有利な起債を活用したい。町の実質負担を4分の1程度に抑制することを目指している。この4分の1の大半はふるさと納税を充てたい。昨年のふるさと納税の実績は約26億円、今年度は37～38億円である。そのうち町が活用できるのは半分程度となる。これまでも基金として計画的に活用してきた。 - ただし、これらについても楽観しているわけではない。JA等と連携しながら、戦略的に取り組んでいきたい。さらに言えば、運営費についても必ず生じうる。来年度より新たな基金を創設し、各種施設運営の財源として捻出したい。ふるさと納税は町外の人から集めたものであることから、関係人口創出に資する用途で活用したい。	質問
せんとぴゅあ の 価値評価	せんとぴゅあについても金銭に換算されなくともにぎわいを創出する意義がある。それを評価できる体制にしてほしい。	努力はしてまいりたい。また、駅跡再開発プロジェクト以外にも、連動する施設を含めた検討を行っていく。そうした観点で考えていきたい。	意見